

## もの言う教師のエッセー 第230話

### 3. 11 追想 ②

### 「 銀河鉄道の夜 」

東日本大震災で児童74人と教職員10人が犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校に、東北が生んだ作家、宮沢賢治の名作「銀河鉄道の夜」の壁画がある。震災前の卒業生が描いたという。壊れた校舎を見るのがつらい遺族が少なくなく、地元住民の思いは複雑だ。後世に残すべきか、解体か。意見が分かれたが石巻市は保存を決めた。保存への流れを作ったのは卒業生たちで、その一人である当時5年生の只野哲也さんは、学校で奇跡的に助かったが、妹と友達を失い、母と祖父も津波で亡くした。

彼は、高校で部活や勉強に悩むと大川小を訪れるという。もちろん津波の記憶も呼び起こされる。「でもそれ以上に強く、友達との楽しい日々がよみがえるんです。サッカーをして、花見をして、雪合戦をしたことなど。生き残った自分は思い出すことができる。だから悩んでいたら申し訳ないと思う。学校は勇気をもらえる場所であり、友達が生きた証しなんです。」と話す彼を見て、古代ギリシャの詩人アイスキュロスの詩、「眠りの中でさえ忘れられない痛みが、一滴一滴と心の上に落ち、やがて自らの絶望の中で、自らの意思に反して、畏れるべき神の恩寵を通して知恵が到来する。」を思い出した。聖書には、絶望の中から神の力の波動を受け、知恵に満たされ事を成す英雄が多い。そのうちの一人、預言者ヨナも

「あなたは私を海の真中の深みに投げ込まれました。潮の流れが私を囲み、あなたの波と大波がみな、私の上を越えて行きました。しかし、私の神、主よ。あなたは私の命を穴から引き上げてくださいました。私のたましいが私のうちに衰え果てたとき、私は主を思い出しました。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。」ヨナ書2章3,6-7節、

と歌っている。今はただ、東北の方々が神を信じ、神から勇気をいただき復興を成し遂げ、歓喜の賛美を神に捧げる日が来ることを祈るのみである。思えば「銀河鉄道の夜」は孤独な少年ジョバンニが宇宙を旅するストーリーで、しかも未完の作品だ。これから何があるとも知れない旅へ只野さんたちも、私たちも乗り出していく。苦しい時も辛い時であろう。その時はいつも神の元へ立ち帰ろう。

2016-4-8

